



トルコ、ハイテク誘致に本腰 高インフレ「制御下にある」—ダールオール投資局総裁

自動車や機械類の輸出が盛んなトルコは近年、ハイテク投資の呼び込みに熱心だ。2024年7月には、中国電気自動車（EV）最大手の比亜迪（BYD）が工場新設を発表。欧州市場への良好なアクセスが決め手となった。半面、足元ではインフレ率が30%台で推移、通貨リラの相場は軟調で、人件費や部品輸入コストが高止まりするとの懸念がくすぶる。現在の投資環境について、来日したトルコ大統領府投資局のブラク・ダールオール総裁に聞いた。

—トルコの投資環境とその魅力は。

まずは経済成長率の高さだ。エルドアン政権が発足した03年以降の年平均成長率は5.3%に上る。レジリエント（強じん）な経済でもあり、欧州債務危機などの経済ショックの後、他国に先駆けて回復した。政府債務残高が国内総生産（GDP）比で30%未満と、低水準なことが背景だ。加えて投資環境の改革にも取り組んでおり、03年には保守的だった外国直接投資（FDI）法を改正した。経済協力開発機構（OECD）がまとめるFDI制限指数を見ても、現在のトルコは世界で最も開放的な国の一つだ。立地も良好で、三つの大陸の結節点に位置する。



トルコ大統領府投資局のブラク・ダールオール総裁＝10日、東京都中央区

—ハイテク産業誘致の状況は。

テクノロジー分野は常に産業政策の重点だ。エルドアン大統領は24年、ハイテク分野や先端製造業の投資誘致に資金を投入するプログラム「HIT-30」を発表し、その対象にはEVなどの「新エネルギー車（NEV）」や半導体、再生可能エネルギー関連の投資が含まれる。このプログラムは主に大企業向けだが、「テック・ビザ（新興ハイテク企業向けに就労要件を緩和した査証、同年発行開始）」などスタートアップ向けの優遇策も充実している。

—日本企業からの投資呼び込みの数値目標は。

国別の目標は設定していない。ただ日本に関しては、現在の貿易総額が50億～60億ドル（約7700億～9200億円）のところを、100億ドル規模に拡大できると考えている。また、現在トルコで事業展開する日本企業は現地企業との合弁会社を含め約300社だが、今後数年で400社に増やしたい。

—直近の通貨安は部品輸入の重荷か。

当然、時間の経過とともに相場は上下する。ただ直近の四半期では、リラ相場はむしろ実質的に上昇していると言える。同時にインフレが進行し、リラの上昇率がインフレ率よりも低いために、為替レートに（名目上は下落基調の）変化が生じている。われわれが目にしてるのはこうした短期的な変動だ。相場はいずれ調整されるため、通貨安を懸念する必要はない。

—足元の高インフレについても同様の考え方。

現在はインフレを抑制するための政策を実施しており、正しい軌道に乗っている。インフレ率を来年には10%に下げ、その後数年で再び1桁台に戻すことを目標としている。03年以降の期間を見れば、われわれはおおむね1桁台のインフレ率を維持してきた。ここ数年は一時的に高インフレの時期があったが、現在は制御下にある。経済政策は機能しており、政治的な決意もそれを支えている。この政策が成功し、再び1桁台に戻ると信じている。

—一日トルコEPA交渉は長期化しているが。

われわれは新たな自由貿易協定(FTA)の締結に前向きだ。日本の場合は経済連携協定(EPA)という形になるが、こうした協定は重要だと考えている。もちろん、交渉には双方の合意が必要で、官僚が草案を精査している。協定は双方にとって「双赢」でなければならず、相手国の希望を理解する必要がある。締結時期がいつになるかは不明だが、両国のビジネス団体は早期締結を望んでいる。(聞き手=外国経済部・一井彬人)

《国連・国際機関》

カナダでG7外相会合出席へ=米国務長官

【ワシントン時事】米国務省は10日、ルビオ長官が11、12両日の日程でカナダ東部オンタリオ州ナイアガラ地方を訪れ、先進7カ国(G7)外相会合に出席すると発表した。ロシアの侵攻が続くウクライナやパレスチナ自治区ガザの情勢に加え、重要鉱物のサプライチェーン(供給網)強化などについて話し合う。

《アフリカ・中東》

シリア大統領、ホワイトハウス初訪問=トランプ氏と会談、関係強化へ

【ワシントン時事】トランプ米大統領は10日、シリアのシャラア暫定大統領とホワイトハウスで会談した。1946年のシリア独立後、シリア大統領のホワイトハウス訪問は初めて。会談では、経済協力など両国の関係強化について協議。トランプ氏はシリアの再建、復興を後押しする姿勢を改めて強調した。

トランプ氏は会談後、記者団に対し、シャラア氏を「力強い指導者だ」と評価し、「シリアの成功に向か、できることは何でもやる」と強調した。トランプ氏は5月、訪問先のサウジアラビアの首都リヤドでシャラア氏と会談しており、両者の顔合わせは2度目。

シャラア氏は会談後、FOXニュースとのインタビューに応じ、トランプ氏と「シリアにおける将来の投資機会について話し合った」と説明。「シリアは安全保障上の脅威ではなく、地政学的な同盟国と見られている」と語った。会談にはバンス副大統領やルビオ国務長官も同席し、協議は1時間を超えた。



10日、ホワイトハウスで握手するトランプ米大統領（左）とシリアのシャラア暫定大統領（AFP時事）